

清水 いま、低炭素社会に向けたという議論がいろいろあったと思います。これは鎌形さんがおっしゃったように、日本としても政府全体としてやっていることです。

さっき藤野さんの話にあったように、中国や韓国も、まさにそういう取り組みをしている。

一方で、この中期目標を議論している国際交渉の場では、中国は、たとえば「先進国が40%削減しないとわれわれはやらない」というような話をしていて、韓国は、OECDに入っているにもかかわらず、中期目標すら掲げる意志を持っていません。

これは一体どういうことなのかということですが、国として低炭素社会をつくっていくというビジョンと、2020年というタイミングで、国際的に約束する中期目標というものが、同じようなものであり、少し違う部分があるというのが、また1つ重要なポイントなのかなと思っています。

低炭素社会をつくっていく上で、この中期目標もあれば、長期的にどういう削減をしていくのか、それから、日本以外の国にどういうふうに貢献していくのかないろいろな要素があります。その中で、今日の中期目標という話があると思いますので、ぜひそのあたりも含めて、日本としてどういう社会を目指していくのかを考えていただけるといいのかなというふうに思います。

以上